

14.環境に関する施策

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	良好な環境の保全と創出		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-01-①	施策名	自然環境の保全	

施策の概要
生物多様性の保全や市民が自然とふれあうための活動を推進し、自然とともに生活する環境づくりを進めます。

成果指標(単位)	「いきもの自然学校」受講者数(名)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	210	260	310	380
実績値	166	213			

成果指標実績に対するコメント
総合的に環境が学べるモデル地域2学区(志津・笠縫東)において、専門家、地域、団体等との協働により、環境学習プログラムを実施した。令和7年度の受講者数は笠縫東学区29名、志津学区18名の合計47名で目標値を達成することができた。特に志津学区に関しては、過去の参加者とまちづくり協議会が主体となってプログラムの実施に携わっており、地域の自然環境の保護や保全に関わる人材の育成にもつなげることができた。

施策の達成度評価
第3次草津市環境基本計画に基づき各種事業を推進した結果、重点事業1「いきもの自然学校」に関する取組については、参加者とまちづくり協議会が主体となり、事業の推進に関わる人材育成や、モデル地域の利活用を図るための環境学習プログラムを実施する等、一定の効果がみられた。また、自然環境保全地区における危険木除去事業は4地区で危険木を除去し、令和3年度危険木調査でA判定となった樹木106本すべての除去が完了した。そのうえで、現時点での樹木の状態を個別調査し、新たに危険木判定された7地区で9本の樹木を除去し、地域の自然環境の保全を図ることができた。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は「No.26暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる」があり、偏差値が58.5という平均以上の高い結果であった。
ウェルビーイングの観点からも、地域の自然に目を向け身近に感じることができるよう地域の自然環境の保全や地域資源の利活用を取り入れた事業を継続して実施していく。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
重点事業1「いきもの自然学校」については、受講者が自然に関心を持ち、地域の自然環境の保全につながる事業を目指し、まちづくり協議会等の関係機関と連携を強めながら事業内容の充実を図るとともに、新たなモデル地区での事業実施を進める。また、事業について市ホームページ等で発信し、周知を行う。自然環境保全地区については、危険木の個別調査を実施し、各地区の管理者等に対し補助を行うことにより、自然環境等に親しむことができる場と機会の提供を推進する。
重点事業1「いきもの自然学校」や、危険木除去事業は、地域の環境保全だけではなく、「No.26暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる」の指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であると考えており、高い水準ではあるものの、引き続き目標の達成に向け、地域の自然環境の保全や自然環境に親しむ場と機会の提供に努めていく。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
自然環境保全啓発推進事業	環境政策課	○	「いきもの自然学校」や自然環境保全地区危険木除去等事業を実施した結果、市民の自然に対する関心を深めるとともに、地域の自然環境を保全することができたため。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
環境審議会運営事務	環境政策課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
26	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる	実数	3.6	3.7			
		偏差値	56.4	58.5			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)									

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	良好な環境の保全と創出		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-01-②	施策名	環境汚染、環境負荷対策の促進	

施策の概要
事業所等への適切な指導・啓発を通じ、環境汚染等の未然防止に努めるとともに、環境負荷の低減を図ります。

成果指標(単位)	河川の水質における環境管理基準の達成状況(達成回数／調査回数)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	72/72	72/72	72/72	72/72
実績値	66/72	60/72			

成果指標実績に対するコメント
市内2河川にて、3項目12回の水質調査をそれぞれ行った結果、伊佐々川で3回、狼川で9回の基準超過があり、目標値には達しなかった。基準超過の原因を究明するため、上流での追加調査や流域の事業所の排水調査を重点的に実施したが、発生源の特定には至らなかった。

施策の達成度評価
河川の水質調査については、調査の結果、72回の測定のうち12回が環境管理基準を超過したため、継続して河川監視の強化、規制対象の事業所の排水調査に努めた。事業所等指導については、水質汚濁、大気汚染、騒音、振動、悪臭等の環境負荷が大きいと懸念される事業所への定期的な立入や、従来から苦情が継続している事業所への定期的なパトロールを実施し、積極的な指導啓発を行った。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、偏差値が高い順に「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」「No.27 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる」があり、いずれも偏差値が55を上回る結果であった。 一方で、水質の基準超過が複数回あるため、ウェルビーイングの観点からも、引き続き水質汚濁の原因究明および河川監視の強化の継続実施に努める。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
河川の水質調査など環境調査を継続するとともに、狼川流域の河川監視の強化、規制対象の事業所の排水調査に努め、規制対象外の事業所に対しても調査や啓発等を実施していく。また、引き続き環境負荷が大きいと懸念される事業所への定期的な立入や従来からの苦情が継続している事業所への定期的なパトロールを実施し、積極的な指導啓発を実施していく。
河川の水質調査や事業所への指導・啓発は環境汚染の未然防止や負荷の低減を図るだけでなく、当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標である「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」「No.27 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる」といったウェルビーイング向上にも寄与できると考える。今後も、市民の環境への興味関心が高まるよう、河川水質結果等の公表、周知を実施していく。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
事業所等指導事業	環境政策課	○	環境負荷が大きいと懸念される事業所への定期的な立入や従来からの苦情が継続している事業所への定期的なパトロールを実施し、積極的な指導啓発を行った結果、環境汚染等の未然防止が図れたため。
環境調査事業	環境政策課	○	継続して河川調査などの環境調査を実施した結果、市内の環境の状況を適切に把握し、良好な環境の維持管理につなげることができたため。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
市街地排水浄化施設維持管理事業	河川課
流域下水道維持管理費負担金事務	河川課
浄化槽法等指導事業	上下水道施設課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】								
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
27	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	実数	3.4	3.5				
		偏差値	55.8	56.7				
28	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	実数	3.2	3.3				
		偏差値	62.0	68.4				

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)		51	52	53	54	60	61		

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	良好な環境の保全と創出		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-01-③	施策名	環境学習の拡充	

施策の概要
地域資源を生かした環境学習を充実させ、環境活動に携わる人材の確保に努めることにより、生涯を通じて誰もが環境について豊かに学び行動できる、持続可能な地域社会づくりを進めます。

成果指標(単位)	こども環境会議参加団体数(団体)				
	令和6年度 (※基準値)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値		76	78	80	82
実績値	61	65			

成果指標実績に対するコメント
令和7年度目標値76団体に対して、実績値は65団体となり、目標を達成できなかったが、幅広く参加を呼びかけることにより、令和6年度と比較して4団体増加させることができた。 目標未達の原因としては、コロナ禍以前の水準(R1:64団体)に戻ってきたものの、休日開催のため、小・中学校からの参加が難しくなっていることや、新規の地域活動団体が少なくなっていること等の要因により伸び率が緩やかになっているものと考えられる。

施策の達成度評価
第3次草津市環境基本計画に基づき、環境について学び行動できる地域社会づくりとして、環境学習教材の貸出や環境学習への講師派遣を実施した。こども環境会議は壁新聞や展示物をくさつエコスタイルプラザ、イオンモールで展示を行うとともに、YouTube「くさつチャンネル」、くさつスケッチのTV放送等で発信することにより、環境学習活動の啓発を行うことができた。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、偏差値が高い順に「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」「No.26 暮らしている地域では、身近に自然に感じることができる」「No.27 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる」があり、いずれも偏差値が55を上回る結果であった。 一方で、成果指標目標の参加団体数に達しなかったことから、ウェルビーイングの観点からも、引き続き環境学習を通じて環境について学び行動できる地域社会づくりをすすめたい。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
市民が環境に関心を持ち、様々な環境学習が行えるよう、市ホームページやイベント等で環境学習情報を発信するとともに、講師派遣や貸出教材のさらなる充実を図る。また、こども環境会議は、交流やつながりが深まるよう実行委員会において内容の充実を図るとともに、開催について広報等で周知を行い、事業所、団体、大学など多種多様な主体による参画が図れるよう参加の呼びかけを行う。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標である「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」「No.26 暮らしている地域では、身近に自然に感じることができる」「No.27 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる」は、市民の環境への興味関心に基づいた指標であり、より一層の広報、周知を行い環境活動に携わる人材を増やしていくことで、ウェルビーイング向上に寄与できると考える。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
環境学習推進事業	環境政策課	○	こども環境会議などの環境に関するイベントの開催や、環境学習のための教材貸出・講師派遣を実施した結果、市民の環境への関心を深め、環境学習を推進することができたため。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】									
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
26	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる	実数	3.6	3.7					
		偏差値	56.4	58.5					
27	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	実数	3.4	3.5					
		偏差値	55.8	56.7					
28	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	実数	3.2	3.3					
		偏差値	62.0	68.4					
関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									
客観指標No. (令和7年度)									備考

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	脱炭素社会への転換		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-02-①	施策名	様々な主体の自主的な取組の支援とネットワークの拡充	

施策の概要
脱炭素社会への転換に向けた取組を支援するため、愛する地球のために約束する協定をはじめ、様々な主体が自主的に取り組むための制度・仕組みづくりを行うとともに、自主的な取組を促す情報提供やネットワークの拡充を図ります。

成果指標(単位)	草津市地球冷やしたい推進協議会の会員数(者)				
	令和6年度 (※基準値)	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値		82	87	92	97
実績値	77	74			

成果指標実績に対するコメント
草津市地球冷やしたい推進協議会の会員数は、令和7年度は新たな入会者が無く、一方で3者が退会となったため減少し、目標値には届かなかった。「愛する地球のために約束する協定」については、令和7年度より補助金交付の要件としたこと等により新たに9者と締結するに至ったものの、いずれの協定締結者も協議会へ入会されなかったことが主な要因と考える。

施策の達成度評価
補助金というインセンティブが協定締結者の増加に繋がったものの、協議会員は増加せず活動が活発だとは言い難い状況を反映していると考えられる。協議会員になることにより、研修や啓発活動における会員同士の情報交換で脱炭素経営等に繋がるメリットが得られると実感いただけるよう、事務局として活動内容の充実を促していきたい。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」であり、偏差値は68.4%であった。本市は、国の法整備に先駆けて、「草津市地球冷やしたい推進協議会」を組織し、市民・事業者・団体・市の協働で地球温暖化対策を進めてきた経緯があることから、偏差値が高い水準になったと考えられる。ウェルビーイングの観点からも、引き続き各主体が地球温暖化対策に積極的に取組んでいけるよう、協議会活動の活性化を図りたい。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
協定締結者の増加にも繋がる補助金制度等は継続するとともに、市の負担金という限られた財源の使い道を工夫し、研修を充実させるなど協議会活動の活性化を図り、会員ネットワークの充実させることで、協定締結者の入会を促していく。
協議会活動は、脱炭素社会への転換に向けた会員の取組を支援するだけでなく、「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」という指標に係るウェルビーイングの向上にも資する取組と考えており、当該指標が高い水準であったことも踏まえ、ウェルビーイング向上の観点からも、協議会会員の増加に向けた事業を展開していく。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
地域協議会運営事業	温暖化対策室	○	協議会の目的である「実行計画(区域施策編)を推進」するため、啓発や研修などの活動を行うことができたため。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
28	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	実数	3.2	3.3			
		偏差値	62.0	68.4			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)			63	64	65				

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	脱炭素社会への転換		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-02-②	施策名	省エネルギー対策・再生可能エネルギー利用等の推進	

施策の概要
省エネルギー機器の導入・更新や再生可能エネルギーの利活用を進めるため、様々な情報提供や支援を行います。

成果指標(単位)	省エネルギー・再生可能エネルギー機器等導入に伴い市の支援を受けた市民・事業者の数(世帯・者)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	51	52	54	56
実績値	27	51			

成果指標実績に対するコメント
目標値と同じ実績値となった。令和7年度から開始した、中小企業等の脱炭素取組支援のための補助金交付者数は、11者を想定していたところ9者となった。一方、既存住宅に新規に設置する太陽光発電と、既存の太陽光発電に接続する蓄電池の設置に対する補助金交付者数は、40者を想定していたところ42者となった。補助事業初年度であったにもかかわらず、概ねPRができており実績に繋がったと考える。

施策の達成度評価
中小企業等の支援補助金は、県の同補助金の同額上乘せ補助金として開始したが、目標にはわずかに届かず誘導効果が限定的だったため、目標達成に向け、より補助事業の周知を図る必要がある。太陽光発電等の補助金については、導入によるCO2削減・省エネ効果などをより丁寧に伝えていくことにより、引き続き目標を上回る支援を行いたいと考える。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」であり、偏差値は68.4%であった。本市は、令和3年にゼロカーボンシティを表明しており、CO2削減目標の達成に向けて市民・事業者に向けた脱炭素取組支援策を強化しており、偏差値が高い水準だったことを踏まえ、ウェルビーイングの観点からも、引き続き補助事業を活用した省エネルギー・再生可能エネルギー機器等の導入を促していきたい。

評価に基づいた令和9年度取組についての考え方
令和7年度から開始した補助事業(支援策)を、今後も継続して実施することにより、事業の周知が図られ活用量の増加が見込めるが、あわせて省エネルギー・再生可能エネルギー機器導入によるCO2削減・省エネ効果を丁寧に伝えていくことにより、継続して取り組んでいただけるよう促していく。
補助事業は、交付を受けた市民・事業者の取組を支援するだけでなく、「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」という指標に係るウェルビーイングの向上にも資する取組と考えており、こうした指標が高い水準であったことも踏まえ、ウェルビーイング向上の観点からも、より多くの市民・事業者が継続して省エネルギー・再生可能エネルギー機器等の導入を進められるよう事業を展開していく。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
地域脱炭素事業	温暖化対策室	○	市の率先行動として、再生可能エネルギーの公共施設への導入を進めるため、ごみ発電の利活用を開始したり、太陽光発電導入に向けた基本設計を行ったりしたため。
エネルギー対策事業	温暖化対策室	○	省エネルギー・再生可能エネルギー機器等導入補助金を、当初の期待どおり市民・事業者にも活用いただけたため。
広報啓発活動事業	温暖化対策室	○	セミナー等で省エネルギー・再生可能エネルギー機器等の導入効果について啓発できたため。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課

成果達成度の表示について

◎ 期待を超える成果があった
○ 期待どおりの成果があった
△ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
28	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	実数	3.2	3.3			
		偏差値	62.0	68.4			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)		63	64	65					

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち	分野	環境
基本方針	資源循環型社会の構築	基本方針に関連するSDGsの目標	      
施策番号	14-03-①	施策名	ごみの発生抑制・再使用・資源化の推進

施策の概要

資源循環型社会の構築のため、発生抑制、再使用によるごみ発生量の削減と資源化による最終処分量の削減の取組を進めます。

成果指標(単位)	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量(集団回収量を含む)(g/人・日)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)※487.2	485.8	484.4	482.9	481.5
実績値	479.1	469.7			

成果指標実績に対するコメント

人口は149,257人と前年度比で844人増加しているものの、これまでの継続したごみの減量や分別に関する啓発等の取組により、令和7年度の家庭系ごみの総排出量についても25,591tと前年度比で364tの削減となり、1人1日あたりの家庭系ごみ排出量が目標値の485.8g/人・日に対して実績が469.7g/人・日と目標を達成することができた。

施策の達成度評価

計画に基づき各種事業を推進した結果、家庭系ごみ排出量(集団回収量を除く)は、前年度の24,236tに対して24,024tと212tの削減となり、資源化率は前年度17.8%に対し17.3%となった。最終処分量は前年度3,791.2tから3,733.9tと57.3t削減することができた。今後も循環型社会の構築に向けて引き続きごみの減量・リサイクルに取り組む必要がある。

当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」があり、偏差値が60を上回る結果であった。本市は、全国に先駆けて廃家具等のリユース事業を行っており、こうした偏差値が高い水準であったことを踏まえ、ウェルビーイングの観点からも、引き続き、ごみの減量・リサイクルに取り組む必要がある。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方

更なるごみの減量・リサイクルによる「資源循環型社会の構築」に向けて、ごみの発生抑制と再使用を進める取組に重点を置きつつ、取組を進めてもなお、排出されるごみについては、できる限り資源物としてリサイクルするため、適正な分別に向けた取組を推進する。

これまでの継続したごみの減量や分別に関する啓発等の取組は、「No.28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」の指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であると考えており、こうした指標が高い水準であったことを踏まえ、ウェルビーイング向上の観点からも、ごみの発生抑制と再使用を進める取組に重点を置きつつ、取組を進めてもなお、排出されるごみについては、できる限り資源物としてリサイクルするため、適正な分別に向けた取組を推進する。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
ごみ減量化推進事業	資源循環推進課	○	生ごみ処理容器の購入に係る補助や資源回収活動の奨励、事業系ごみの減量指導等により、ごみの減量を推進することができたため。
ごみ分別啓発事業	資源循環推進課	○	分別アプリの普及推進や分別ブックの発行等、ごみの分別を周知啓発することにより、ごみの資源化を推進することができたため。
ごみ問題を考える草津市民会議活動補助事業	資源循環推進課	○	ごみ問題を考える草津市民会議と連携して、エコライフフェアの開催や広報誌ごみジャーナルの刊行等により、3Rを啓発することができたため。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
ごみ分別啓発事業	環境政策課
指定ごみ袋購入配布事業	資源循環推進課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
28	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	実数	3.2	3.3			
		偏差値	62.0	68.4			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】								備考
客観指標No. (令和7年度)		62						

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	資源循環型社会の構築		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-03-②	施策名	ごみの適正処理	

施策の概要
効率的な収集とクリーンセンターの適正な運転管理を行います。

成果指標(単位)	排ガス中のダイオキシン類測定結果 (ng-TEQ/Nm³)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	0.1	0.1	0.1	0.1
実績値	0.00016	0.00084			

成果指標実績に対するコメント
一般廃棄物処理施設の維持管理の技術上の基準を満たすよう運転を行った結果、排ガス中のダイオキシン類の測定値は、法令で定められた基準値の1ng-TEQ/Nm³はもちろんのこと、目標値である0.1ng-TEQ/Nm³も満たすことができた。

施策の達成度評価
各家庭から排出される廃棄物を効率的に収集し、クリーンセンターについては、これまでどおり適正な運転管理に努めた。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.19 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である」があり、偏差値が57であった。 こうした偏差値が高い水準であったことを踏まえ、ウェルビーイングの観点からも、引き続き、適正な運転管理に努める必要がある。

評価に基づいた令和9年度の実施についての方針
各家庭から排出される廃棄物を効率的に収集し、生活環境の保全に努めるとともに、排ガス中のダイオキシン類の濃度については法令で定められた施設の基準値(1ng-TEQ/Nm³)の10分の1である0.1ng-TEQ/Nm³を自主基準値として定め、この自主基準値を超過することのないよう、引き続きごみを適正に処理していく。
各家庭から排出される廃棄物を効率的に収集し、生活環境の保全に努めることは、「No.19 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である」の指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であると考えており、こうした指標が高い水準であったことを踏まえ、ウェルビーイング向上の観点からも、排ガス中のダイオキシン類の濃度については法令で定められた施設の基準値(1ng-TEQ/Nm³)の10分の1である0.1ng-TEQ/Nm³を自主基準値として定め、この自主基準値を超過することのないよう、引き続きごみを適正に処理していく。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
ごみ収集運搬事業	資源循環推進課	○	各家庭から排出される廃棄物を効率的に収集し、生活環境を保全することができたため。
クリーンセンター管理運営事業	資源循環推進課	○	計画的・定期的な施設の補修やごみ処理施設を適正に運転・維持管理することができた。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
湖南広域行政組合運営負担金事務	資源循環推進課
広域廃棄物埋立処分場建設費負担金事業	資源循環推進課
草津市処分場管理事業	資源循環推進課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】								
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
19	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	実数	3.1	3.2				
		偏差値	55.2	57.9				
関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】							備考	
客観指標No. (令和7年度)								

まちづくりの基本目標	「暮らし」支えるまち		分野	環境
基本方針	資源循環型社会の構築		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	14-03-③	施策名	環境美化の推進	

施策の概要
ごみの不法投棄防止のための定期的なパトロールの実施をはじめ、市民・地域・事業者・行政等が連携・協力し環境美化に努めます。

成果指標(単位)	不法投棄ごみ率: 不法投棄ごみ量／ごみ発生量(%)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	0.03	0.02	0.02	0.02
実績値	0.03	0.03			

成果指標実績に対するコメント
不法投棄ごみ率は変化していないものの、クリーンセンターに搬入された不法投棄ごみ量は減少しており、定期的なパトロールによる監視活動や町内会によるボランティア清掃活動など、市民・地域・事業者との連携による取組の結果、生活環境の保全を図ることができた。

施策の達成度評価
不法投棄の発生が懸念される場所について定期的なパトロールを行うとともに、町内会等への不法投棄禁止看板やボランティア清掃用のごみ袋の交付など、不法投棄の未然防止や投棄物の回収に努めたことで、生活環境の保全を図ることができた。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」があり、偏差値が60を上回る結果であった。こうした偏差値が高い水準であったことを踏まえ、ウェルビーイングの観点からも、引き続き、生活環境の保全を図る必要がある。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
パトロールによる監視や監視カメラの有効活用など、不法投棄対策に引き続き取り組む。 また、悪質性が高いと判断した場合は、警察への通報も含め、地域と連携し解決を図る。
不法投棄対策に関する取組は、「No28 私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである」の指標にかかるウェルビーイング向上にも資する取組であると考えており、こうした指標が高い水準であったことを踏まえ、ウェルビーイング向上の観点からも、引き続き定期的なパトロールの実施をはじめ、市民・地域・事業者・行政等が連携・協力し環境美化に取り組む。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
不法投棄対策事業	資源循環推進課	○	定期的なパトロールによる監視やボランティア団体との協働による不法投棄物の回収等によって、生活環境の保全することができたため。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
生活環境等対策事業	資源循環推進課

成果達成度の表示について

◎ 期待を超える成果があった
○ 期待どおりの成果があった
△ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
28	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	実数	3.2	3.3			
		偏差値	62.0	68.4			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)									